



ベトナムの観光地

ベトナムの見どころはハノイとホーチミン以外にもたくさん！
絶対に行くべき観光のおすすめ！

ベトナムは南シナ海に面する、長く南北に広がる国。『アンコール遺跡群』や『フエの建造物群』など世界遺産の印象が強く、すごく歴史が感じられる街並みなんだろうな、と思っていたら、ふいにヨーロッパ風建築が目に入ってきたりと、なかなか探索しごたえのある国です。ですが、日本人観光客のほとんどは『ハノイ』や『ホーチミン』、世界遺産だけを見て満足してしまうそう。定番もちろん大切ですが、現地のオススをし、穴場観光スポットを訪れてみませんか？



ダナン(DA NANG)

ビーチリゾートで人気のダナンであり。「フラマリゾートダナン」、「フュージョンスイートダナンビーチ」や「フュージョンマイアリゾート」などのベトナムで大注目のビーチリゾートがあり、最新5つ星ホテルも続々オープン！ビーチ以外には絶景もみられるパワースポットとして知られている「リンウン寺院」や洞窟の穴から差し込む光が神秘的な「五行山(マーブルマウンテン)」もおすすめです。

ゴールドエンブリッジ

Golden Bridge



ロン橋(ドラゴン橋)

Seaside and riverside city



- ロン橋(ドラゴン橋) - ロン橋は、龍の形のデザインが特徴的で、龍の頭から火を噴いたり放水したりする週末夜には観光客が多く訪れる



ダナン観光

巨大な仏塔を洞窟の周りに建設した。
バナヒルズ(バーナー山)- ダナン西側にあり、
全長5,772mのケーブルカーで標高1487mま
で登る山岳リゾート地



ハロン湾(HA LONG BAY)

世界遺産にも登録されていて、ハロン湾クルーズを楽しむ人が多く、雑誌やテレビでも度々紹介される人気観光スポットです。クルーズ以外にはシーカヤックや鍾乳洞見学もおすすめです。



- この世界遺産は世界遺産登録基準における以下の基準を満たしたと見なされ、登録がなされた(以下の基準は世界遺産センター公表の登録基準からの翻訳、引用である)。
- ひときわすぐれた自然美及び美的な重要性をもつ最高の自然現象または地域を含むもの。
- 地球の歴史上の主要な段階を示す顕著な見本であるもの。これには生物の記録、地形の発達における重要な地学的進行過程、重要な地形的特性、自然地理的特性などが含まれる。



ホイアン(HOI AN)

ベトナム中部クアンナム省の都市であり、ダナン市の南方30キロ、トゥボン川の河口に位置する古い港町である。人口121,716人。ヨーロッパ人にはファイフォ、フェイフォ(FAIFO)と呼ばれたこともある^[1]。中国人街を中心に古い建築が残り、1999年(平成11年)に「ホイアンの古い町並み」としてユネスコの世界文化遺産に登録されている。



フォンニャ＝ケバン国立公園(Phong Nha-Kẻ Bàng National Park)



世界遺産にも登録されている「フォンニャ＝ケバン国立公園」である。公園のほとんどが原生林で、約500種以上の植物と約800種以上の動物が生息しています。「フォンニャ洞窟」や「ティエンソン洞窟」など約300の洞窟があり、一部が一般公開されています。



フォンニャ＝ケバン国立公園は、ベトナムのクアンビン省にある国立公園で4億年以上前にできたとされるアジア最古、世界最大級の洞窟です。公園の94%は原生林で、専門家によると568種の植物、獣類113種、爬虫類と両生類81種、魚類72種、鳥類259種、鳥類302種が生息しています。植物には世界とベトナムのレッドブックに入っているものも多くあります。国立公園内には、大小約300の洞窟があり、その総ては未だ解明されていません。英国の王立地理学会の報告によると、フォンニャ洞の長さは7,729M、その美しさ、大きさ、広さなどから最高の評価を与えられています。フォンニャ洞窟はベトナム最大の洞窟で、2億5千年前に形成されフォンニャとは「歯の洞窟」という意味です。



ダラット (DA LAT)

茶園



ポングオーの滝
Pongour waterfall



ダラットはベトナム人の中では『花の都』と呼ばれています。ハネムーン先として根強い人気がありますし、ホーチミンからバスで約6時間ほどで行くことができるため(ベトナム人にとってはそれほど苦ではありません)、カップルが行く人気の旅先エリアとなっています。市内はダラット市場を中心に各名所が点在しています。カラフルな花が咲き誇る「ダラット市ガーデン」や、雄大な自然を感じる「愛の盆地とダティエン湖」、少数民族と交流できる「ランビアン山」など、自然と民族をテーマにした旅はいかがでしょうか。



ベトナムは世界第2位のコーヒー生産国として知られています。「あまり知られていないのに2位!？」と驚く方もいらっしゃるでしょう。それもそのはずで、ベトナムはレギュラーコーヒーの生産をメインとしており、ブランド力のある銘柄の生産はマイナーなのです。そのため知名度だけで見ると、どうしても低いのです。

そんなベトナムですが、近年では品質改善に伴って美味しいコーヒーが増えています。その一つとして注目されているのが、中南部に位置するダラット地方で生産されているコーヒー豆なのです。



口当たりは柔らかいのですが、そこから徐々にビターな大人っぽさが出てくるコーヒーです。飲み始めは、滑らかさの中に香ばしい深さと甘さがあり、ローストアーモンドのような感触です。そこから暗さのある酸味が徐々に広がっていき、レーズンのようなテイストへと変化していきます。その後は酸味が消えていき、滑らかさ・深さ・甘さが残ります。ここから余韻に亘って先程のテイストは、再びアーモンドに似た様相を呈します。印象としては、燻し銀のような渋い大人のコーヒーです。

